

| | |
|-------------------------------------|--|
| 科目名 | 養育期家族援助学 Child Caring Family Nursing |
| 授業形態 | 講義(50%)、演習(50%) |
| 標準履修年次 | 1年次 |
| 実施学期・曜時限等 | 春学期 A・B 月曜日5・6 (他曜日への振り替えあり。各回、受講生と協議の上変更の日程決定しま |
| 単位数 | 2単位 |
| 担当教員名 | 涌水 理恵 小澤 典子 |
| ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA) | |
| オフィスアワー等 | オフィスアワーは特に定めませんが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp |
| 授業の到達目標 (学習成果) | (1)家族看護が国内外で発展してきた過程を説明できる。 (2)家族看護が求められてきたあるいは求められている時代的背景および課題について説明できる (3)家族を支える保健医療福祉の制度と体制の現状と課題を、具体的に述べられる。 (4)家族看護の役割と位置づけを、具体的に説明できる (5)家族看護の領域に関わる他職種とのコーディネーターの役割を理解し、コンサルテーション及び教育の具体的方法がイメージできる。 |
| 他の授業科目との関連 | 家族生活アセスメント学、家族看護学基盤実習 |
| 履修条件 | なし |
| 授業概要 | さまざまな環境や社会的状況下で、子どもを養い育てる時期にあり、援助を必要としている家族に対して卓越した看護、高度な看護を提供できる能力を養うために、健康・不健康を問わずあらゆる健康状態の子どもとその家族についての卓越した知識を習得し、家族の健康および生活に関して幅広いディスカッションをおこなう。 |
| キーワード | 子どもと家族への援助、家族のアセスメント、援助の立案 |
| 授業計画 | 1(未定)養育期家族援助学の概説(涌水・小澤) 2(未定)養育環境と家族援助1(妊娠期)(涌水・小澤) 3(未定)養育環境と家族援助2(新生児期)(涌水・小澤) 4(未定)養育環境と家族援助3(乳児期)(涌水・小澤) 5(5/13)養育環境と家族援助4(幼児期)(涌水・小澤) 6(5/13)養育環境と家族援助5(学童期)(涌水・小澤) 7(5/20)養育環境と家族援助6(思春期)(涌水・小澤) 8(5/20)養育環境と家族援助7(青年期)(涌水・小澤) 9(5/27)新しい生命を迎える家族への援助1(涌水・小澤) 10(5/27)新しい生命を迎える家族への援助2(涌水・小澤) 11(6/3)新しい生命を迎えた家族への援助1(涌水・小澤) 12(6/3)新しい生命を迎えた家族への援助2(涌水・小澤) 13(6/10)入院する子どものいる家族への援助1(涌水・小澤) 14(6/10)入院する子どものいる家族への援助2(涌水・小澤) 15(6/17)入院する子どものいる家族への援助3(涌水・小澤) 16(6/17)入院する子どものいる家族への援助4(涌水・小澤) 17(6/24)慢性疾患をもつ子どものいる家族への援助1(涌水・小澤) 18(6/24)慢性疾患をもつ子どものいる家族への援助2(涌水・小澤) 19(7/1)子どもの養育に困難を抱える家族への援助1(涌水・小澤) 20(7/1)子どもの養育に困難を抱える家族への援助2(涌水・小澤) |

| | |
|-------------------------|---|
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法 | <p>講義(15時間)、演習(15時間)</p> <p>事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。</p> <p>毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。</p> <p>授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。</p> |
| 成績評価方法 | <p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。</p> <p>成績評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で、到達目標の達成度を以下の基準に基づいて判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。</p> <p>評価基準は以下の通り。</p> <p>到達目標の1～4を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。</p> <p>到達目標の1～4を達成できていると判断されればB以上と判定する。</p> <p>到達目標の1～5について達成できていると判断されればAと判定する。</p> <p>到達目標の1～5について優れて達成できていると判断されればA+と判定する。</p> |
| 教材・参考文献・配布資料等 | 随時紹介・随時配布する。 |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) | やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。 |